

や、毛の處へ出る脂で、濕つてゐる處へ、塵などがついて、表皮の剝屑などと共に、垢になりますから、度々入浴して垢を洗い落さねば、病氣にかゝります、夫から冷い水で朝々全身を拭くと、皮膚が丈夫になつて感冒をひかない様になります、試して御覽なさい、併し今は寒いですから、初めての方は夏になつてから、お始めなさい。

第四〇

神経系附感覺器

眼て物を見たり、耳て音を聞たりする事は、既に前に述べました、併し何が、眼て物を見るか、耳て音を聞くかと云ふ事は、まだ云はなかつたです、手足を動かすのも、手足の筋肉だ

けて動くのではない、其筋肉を動かせるものが、何かあるのです、何でせうか、それは心です、心があるから見えたり聞えたりする、又手や足も動かす事が出来るのです、それなら心とはどんなものかと云ふと、是は前に一寸お話しした頭蓋骨の内にある脳髓の作用であるのです、其脳髓の作用が如何して眼や耳や筋肉などに通ずるかと云ふと、夫は神経と云ふ白い細い糸の様なものが、其間を連続してゐるからであります。脳髓は最大切な機關であるにも拘はらず、割合に軟弱です、頭蓋骨と云ふ極堅牢な骨の圓い箱の内に藏められてゐます、而して各自の頭の様を、前後に長い橢圓形で、底の方が少し平になつてゐる大脳と、大脳の後の方の下にある圓い形

をした小脳と、其下に續いてゐる延髓との三部から出來てゐます。

大脳 小脳 延髓

大脳は一番大きく、縦に割れ目があつて左右に別ける事が出來ます、内部は色が白いが、表面は灰色で、迂り曲つた皺があります、小脳は大脳の八分の一程の大さで、表面の灰色の處には横にならんだ線があります、延髓は本は大いが下は細くなつて、脊髓に續いてゐます。

脊髓

脊髓は、脊骨の中を通つてゐる長い管の内にある紐の様なもの、外側は白いが心の處は灰色です。

腦の下部の前面から、十二對の腦神経が出て、眼や耳や頬や顎などに分布してゐるし、脊髓の両側からは、三十一對の、

腦神経 脊髓 腦の機能

脊髓神経が出て、胸や腹や手や足などに分布してゐます、總て神経は腦や脊髓を出ると、段々枝別れをして、全身に擴てゐます。

脊髓の機能

大脳の機能は心です、見たり聞たり嗅いだりする様な事や、喜んだり怒ったり悲だりする事や、記憶たり思考たり回想たりする様な事は、皆大脳の仕事であります、小脳は運動するときに、適當に出來る様にするだけの役目で、延髓は呼吸を支配してゐる大切な者です、ですから、小脳が痛んでも言語が不明になつたり、歩く時身體がぶる／＼振へる位の事ですが、延髓は一寸でも傷くと、直に呼吸が止て死ぬのです。脊髓は、腦と脊髓神経との間をつゞける用をします。

知覺神 經 運動神 經 交感神 經

神經は、眼や耳や鼻や皮膚に分布して感じを起すのが知覺神
經で、筋肉に分布して運動を起すのが運動神經です。
今迄お話した外に、交感神經と云ふのがあって、胃や腸の
様な臟腑に分布してゐます。
腦の養生法は、使つたら後で休めるのです、夜はゆるりと眠
らなければいけません、無理な勉強や心配事は腦病の原因で
す。

五 官

最後に、一寸感覺器の事を附加へて置ます、感覺器とは眼耳
鼻、舌及び皮膚です、即見る聞く嗅ぐ味ふ觸れるの五で、こ
れを五官と云ます、皆前に出てゐますから畧しますが、何れ
も其處に分布してゐる知覺神經に依て、外界の有様を腦に報

せるのが、役目であります。

第四一 衛生大意

是迄説明した通り、人體には種々の器關があつて、夫々違つ
た作用をなし、協同一致して、無事に生命を維持してゐるので
す、若し一ヶ處でも、器關に故障が出来たら、もう健康な身
體ではないのです、夫で何時も器關が満足に働ける様に、病
氣にかゝらない様にしていくのを、養生とも衛生とも云ます
養生の概畧は夫々お話を濟ませて來たのですが、こゝでは全
體に就いてお話しませう、多少重複した處もあるかもしれま
せん。

土地

家屋を建てるならば、當りのよい南受の處で、雨が降っても直に乾く様な、排水のい、高燥な土地を選ぶがよろしい。

家屋

家屋も風通しがよく、日がよく當る様にするがよいです、日光の往來せぬ家には、醫者が往來すると云ふ諺があります。

飲料水

飲料水は最注意しなければなりません、川の水や浅い井戸の水は危険です、便所や下水、塵溜などは、成るだけ離れた方が宜しい、味や香のある水は飲まぬがよいです。

食物

食物は身體の肥料ですから、粗末な物を食べるのは大損です、併し贅澤な美味を食するの無益です、結局滋養分に富んだ物を選んで、餘り多すぎない様に注意ればよろしい。

衣服

衣服は何でもよいが、垢づいたのや、汗臭いのはいけません

清潔

肌に直に觸るものは、度々洗濯するに限ります、殊に夏分は尙更です、濕った衣服や黴臭い衣服も毒です、よく日に乾して着るがよろしい。

水浴

身體も清潔にせねば成ません、口を清潔にしないと齲齒ができ、頭をよく洗はないと白癬ができ、身體を不潔にすると根太や頑癬などの皮膚病にかゝります、香水や香油などは使はなくて宜しいが、石鹼は儉約せぬ方がよいです。

水泳

井戸傍で、汲立の水を頭から浴るのは、面倒な様ですが、馴れると何でもない、却って大層氣持がい、是は大にお勧めします、丸一年も續いたら、効力が著しく見えますのでせう。水泳も大に宜しい、併し水の冷い爲め、時としては足の働け

運動 深呼吸

病氣

なくなる事がありますから、せいの立たない處では、決して一人て、泳がない事に定めて置く事です。

撃剣、柔道、庭球、遠足、登山、操艦の様な運動は、何れも身體を健強にします、又毎朝旭に向つて、新鮮な空氣を出來るだけ吸ふては力一杯呼出し、また吸てはまた呼き、百回位繰返すのです、肺を壯健にするに最よい方法です。

病氣にかゝたら、早く醫者に診てもらつて、藥を飲のが一番安全です、一月以上も感冒が抜けないとか、五日も六日も下痢が止まないとか、毎日熱が出て氣分が悪いとか云ふ様な事があつたら、格別苦しくなくても、早く治さねばいけません、病氣を馬鹿にして、輕はづみな事をするのは危険です、併し

衛生の 必要

餘り病氣を恐れ過ぎても、却つて、つけこまれる事があります、先用心するに、越した事はありません。

養生の細かな事をお話すると、際限がありませんから、此位にして置ます、随分種々注意する事があつて、面倒ではあります、止む事を得ないです、併し世間には、養生に構ない人でも、壯健な人があり、始終養生に心掛けてゐる人にも、割合に弱い人がありますが、夫だから養生は無用だとは云へません、生來壯健な人もあれば、虚弱な人もあるから、そう見えるのです、世間が未だ開けない時は、生活が容易で、身體さへ使てゐれば、何時も安心して氣樂に世が送れたのです、ですから藥も飲まず養生をしないで、壯健で長命が出來ます

然るに世は文明になり、人口は段々に増加し、世の中の事が大層複雑でくると、生活は中々困難です、人に負けない様に勉強もしなければならず、稼業に精を出して金儲もしなければならぬ、美味物も食たい、美服も着たい、分限者になりたい、傑い人になりたいと云ふ様な事で、絶えず心を使い、少しも油断する事が出来ません、ですから昔の人と違って、身體が弱り易く、病氣などによくかゝるのです、それを防ぐのが即養生とも衛生とも云ふので、最大切な事でありませう。親に孝行するのも、學問を勉強するのも、大事業を成し遂げるのも、帝國の忠良なる臣民となるのも、皆身體が基礎です、資本です、健康なる精神は健康なる、肉體に宿ると云ふ諺も

ありますから、何卒諸子は是迄學んだ事をよく記憶して、平素夫を應用し、無病息災強壯の身體になられる様に祈るのであります。

小學理科詳解 (尋常六學年) 終

23-77

明治四十二年四月五日印刷
明治四十二年四月十日發行

不許複製

著者

理科研究會

發行者

德島市西新町五丁目四百八十九番地
黑崎精二

發行者

大阪市南區心齋橋筋壹丁目六十七番邸
松村九兵衛

印刷者

大阪市西區阿波座貳番町壹番地
堀越幸衛

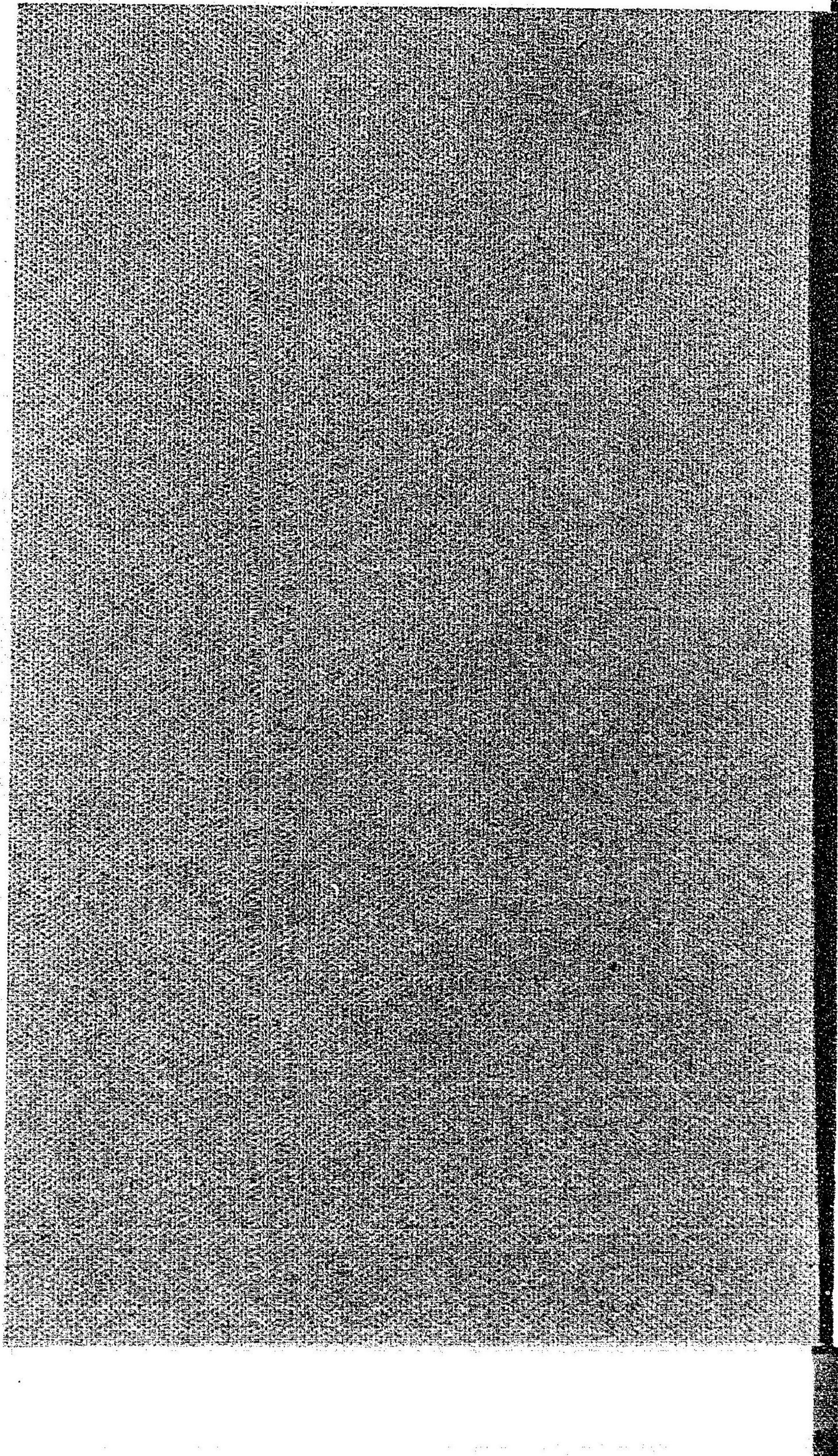
發賣所

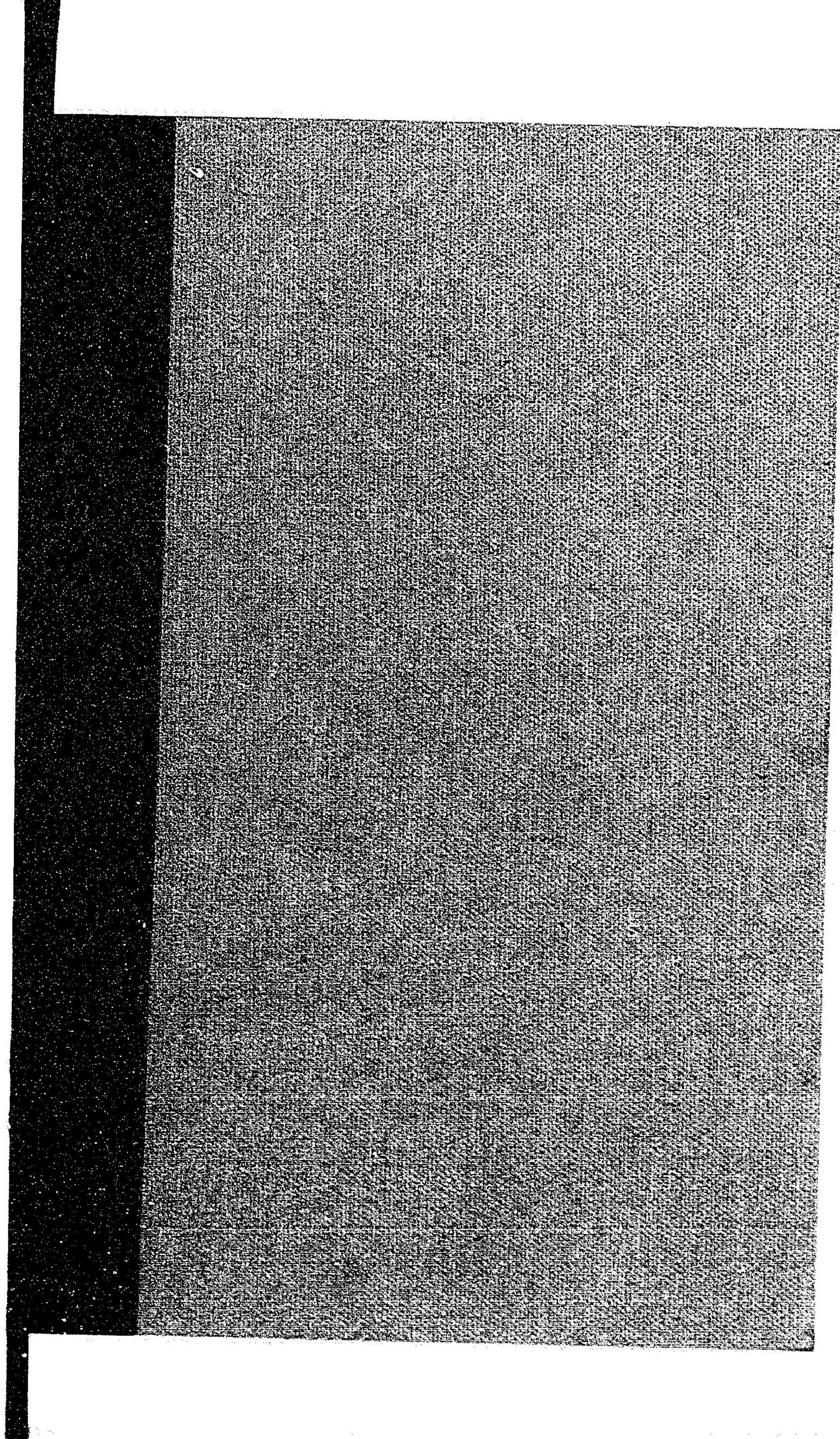
德島市西新町五丁目
電話二七三振替東京五四〇七
大阪市南區心齋橋筋壹丁目
電話東八四 振替大阪四三三
東京市京橋區南傳馬町壹丁目
參地

精壽堂書店
文海堂書店
文山堂書店

小學理科詳解
尋常第六學年

定價金拾五錢





小学理科詳解

尋常第6学年

国立国会図書館

